

入試は、それがどんなにすばらしい試験であっても、高校生や高校教員、保護者にその意図や内容、選抜方法などが伝わり、理解されなければ受験者は増えないし、とりたい学生も来ないもの。「●●方式だと受験料が▲▲円安くなる」といったことは派手に宣伝されているが、肝心の入試科目や試験内容の変更については情報が入りにくい」という高校教員の声もある。高校生や高校教員とのコミュニケーションの見直しも重要だ。



まとめ / 編集部

# 今の入試方式は最適解か？ チェック

先の入試結果を受けて、次年度の入試を見直す会議が開かれる頃だろう。本特集のまとめとして、入試方式を見直す際の検証項目を4つの観点からまとめてみた。10年後、20年後に向け、「さらなる発展」や「生き残り」をかけた入試改革にぜひ取り組んでほしい。

まとめ

Check

C

## 経営的に問題ないか？

- 入試にまつわる業務の負担と入学者の量と質は釣り合っているか？
- GPA推移、中退率、教員の評判、資格合格率はどうか？
- 自学の教育力を向上させるために必要な学生の多様性を確保できているか？
- 入試制度の複雑化により、受験生の動きが把握しにくくなっていないか？
- 競合大の動きや参考になりそうな他大学の入試をチェックしているか？

Check

A

## 高校生や高校教員が期待するものか？

- 自学で学ぶ意欲を促す教育的な入試か？  
逆に阻害するような入試になっていないか？
- 延べ志願者数を増やすためだけの入試になっていないか？
- 効率よく受験したい生徒向けの入試になっていないか？
- 受験生や高校教員に過度な負担を強いる  
独り善がりな入試になっていないか？
- 高校教員や高校生にとって意図と内容がわかりやすいか？

Check

D

## 行政や社会、地域の動きを見越しているか？

- 国の方針や施策を見越して手を打っているか？
- 社会の変化やニーズを考えた入試か？
- 各学部の募集人員は  
その学問系統のマーケット規模に合っているか？
- 募集エリアのマーケットが5年後、10年後、20年後に  
どうなるかを把握しているか？
- 国内だけを見た近視眼的な対応をしていないか？

Check

B

## 求める学生像に対応しているか？

- 3つのポリシーとの整合性はとれているか？
- 求める学生像に合った教科や科目を課しているか？
- 求める学生像に合った合格基準・条件になっているか？
- 求める学生を選ぶための選抜が機能しているか？
- 求めている学生が入りやすい入試になっていないか？